

平成5年度
市川市文化祭
祝 千葉県生誕120周年

合唱の集い

1993年
平成5年

10月3日(日) 2時開演
市川市文化会館大ホール

235th



市川市教育委員会 市川交響楽団協会
千葉県音楽振興協議会 共催

プログラム

合唱

オラトリオ「メサイア」より……………G・F・ヘンデル
ハレルヤ

交響楽

合唱	市川交響楽団協会合唱団
管弦楽	市川交響楽団
指揮	金子建志
ソプラノ	羽田裕美子
アルト	野村陽子
テノール	佐伯雅巳
バリトン	田島好一
合唱指揮	村上正治

交響曲 第九番 ニ短調〈合唱つき〉作品125……………ベートーヴェン

第一楽章 アレグロ・マノン・トロツポ
ウン・ポコ・マエストーソ

第二楽章 スケルツォ モルト・ヴィヴァーチェ

第三楽章 アダージョ モルト・エ・カンタービレ
アンダンテ・モデラート

第四楽章 プレスト (合唱歓喜に寄す)——アレグロ マノン
トロツポ——プレスト——ヴィヴァーチェ——
アレグロ——アレグロ モデラート——アレグロ——
アレグロ アッサイ——プレスト——アレグロ ア
ッサイ——アレグロ アッサイ ヴィヴァーチェ——
アンダンテ マエストーソ——アダージョ マノ
ン トロツポ マ デイボト——アレグロ エネル
ジコ センプレ ベン マルカート——アレグロ
マノン タント——プレスティッシモ——マエス
トーソ——プレスティッシモ

お詫び

ベートーヴェンの第九交響曲でアルトを独唱される野村陽子姉が一週間前のコンサートで喉を痛め、属らく休養しなければならなくなりました。

そこで急遽、市川混声や行徳混声合唱団がお世話になっています下記平安克子姉に交替をお願いしましたところ、心よく御引き受け下さり、出演者一同深く感謝致しております。以上の事情から独唱者に変更がありましたのでお許し下さい。

記



平安克子 (アルト)

千葉県佐原市に生まれる。1973年武蔵野音楽大学声楽科卒業。福井直秋賞、全日本童謡コンクール関東甲信越グランプリ受賞。1990年第一回奏楽堂日本歌曲コンクール入選、国立モツアルテウム音楽院に学ぶ。NHK・FMリサイタル・午後のリサイタル、中国、フランス政府招聘演奏(国営ラジオフランスにおいて日本歌曲演奏)えんれん入賞コンサート、文化庁助成推薦リサイタル、N響オーケストラ「メサイア」ソリスト、木下記念日本歌曲サロンコンサート、中田喜直・大中恩・橋本国彦・山田耕筈・清水修・平井康三郎・團伊玖磨等、邦人作曲家の作品演奏、オペラ「カルメン・シータ」・「卒塔婆小町」、今注目の佐々木クリスタル楽器による共演・他多数出演、好評を博す。特に日本歌曲紹介に於いて高い評価を得ている。日本語の響き、音楽の流れと日本伝統文化の接点を、西洋音楽を基本に追求しての演奏を心がけている。

なお、教育TV・ラジオ出演、ミュージカル・オペラ・宗教曲と幅広くレパートリーを持つ。3才より多くの童謡クラシック音楽の環境のもとに育つ。更に祖父 根本元春(観世流、人間国宝、梅若六郎の直弟子、師範)の影響を受け、今日の声楽に至る。発声法を通じ日本歌曲の普及指導を16年間進めている。光信貞禄、中村浩子、戸田敏子諸氏に師事。

二期会オペラ、日本オペラ、日本演奏連盟、木下記念日本歌曲等会員。

尚オーケストラ出演者名簿内の第1バイオリン覧に横田佐貴絵嬢名が削除されていた事も、お詫び致します。

紹 介



金子建志 (指揮)

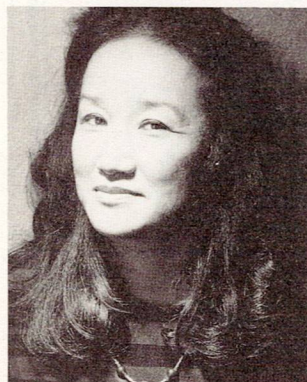
1970年、東京芸術大学楽理科卒業。音楽理論を柴田南雄氏、指揮を渡辺暁雄氏に学ぶ。在学中より母校の千葉高オーケストラを指揮し、千葉大学管弦楽団のトレーナーを務める。卒業後、斎藤秀雄氏に指揮法を師事。72年、市川交響楽団の第九交響曲演奏会で渡辺暁雄氏のアシスタントを務めるなど、千葉県内に於けるアマチュアオーケストラ活動に積極的に関わり、京都市交響楽団、市川交響楽団他、多くのオーケストラを指揮。この間に海野義雄、安川加寿子、宮沢明子、深沢亮子、館野泉、浦川宣也、漆原啓子氏と共演。85年に千葉フィルハーモニー管弦楽団を新結成し、音楽監督兼常任指揮者に就任。90年9月、世田谷区でジュネスのOBを中心として結成されたカメラータ・ユピテル(現世田谷交響楽団)第1回演奏会でマーラーの第九交響曲を指揮。好評を博し名誉指揮者に就任。91年4月常葉学園短期大学教授に就任。指揮法と音楽史を教える。

NHK・FM番組で解説者を務めたり、「朝比奈隆 交響楽の世界」を編集、解説して出版するなど評論・研究の分野での知名度も高い。

また、昨年9月には、91年の市響創立40周年記念演奏会の縁で、中国瀋陽市より招聘され、地元のプロオーケストラ瀋陽交響楽団の中国作品プログラムを指揮して大成功を収めた。今回の合唱団との共演は、86年の第185回市響・合唱の集いにおけるモーツァルト「レクイエム」以来となる。

羽田裕美子 (ソプラノ)

国立音楽大学声楽科卒業。1981年、読売新人賞受賞。第50回毎日音楽(現、日本音楽)コンクール音楽部門入選。1984年、オペラ研修所第4期生修了。二期会第27期研究生修了。1985年9月、文化庁芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。1986年7月帰国。1987年、再びイタリアミラノに留学、ヴェルディ国際コンクール入選。ヴィオッティ国際音楽コンクール音楽部門にて2位(1位なし)入賞。1989年7月帰国。二期会オペラ公演、ワーグナー『ワルキューレ』のヘルムヴィーゲ役、NHK、FM「午後のリサイタル」、NHK教育テレビ「第九をうたおう」、千葉県民の日記念コンサート、千城台千葉市民文化ホール開館記念コンサート、君津市民文化ホールに於けるリサイタル、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と富津市民会館コンサート、オペラガラコンサート等に出演。東海大学教養学部芸術学科講師。二期会会員。



野村陽子 (アルト)

東京芸術大学卒業。1975年ベルリン国立音楽大学を主席で卒業。畑仲更子、平原寿恵子、田中路子、イルムガルト・ハルトマン・ドレスラーの各氏に師事。75年より88年までベルリン・ドイツ・オペラ劇場の専属歌手として、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、モーツァルト等20演目以上のオペラに出演する一方、ヨーロッパ各地やアメリカの歌劇場に客演。また、オラトリオの分野でもバッハ、モーツァルト、ストラヴィンスキー、バルトークなどベルリン・フィルハーモニー、ベルリン放送管弦楽団と共演する。ベルリン音楽祭、シュベッツインゲン音楽祭出演。83年10月イノホールにて初のリサイタルを行い好評を得る。同年12月二期会の「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役で日本オペラ界にデビュー。翌年藤原歌劇団にて「バタフライ」のスズキを歌い絶賛を博す。87年ベルリン・ドイツ・オペラ日本公演で「ニーベルンゲンの指環」より「ワルキューレ」のジークルーネを歌う。88年9月帰国。89年東京グローブ座にて「ハムレット」の王妃役で好評を博し、90年神戸オリエンタル劇場にて「ハムレット」の再演。また井上道義指揮京都市交響楽団にて「復活」を歌い好評を得る。91年10月には帰国後初のリサイタルを津田ホールにて行い大成功をおさめた。89年度、91年度日本音楽コンクール審査員。現在東京音楽大学専任講師。二期会会員。

佐伯雅巳 (テノール)

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了、中山悌一、伊藤亘行に師事、毎日コンクール声楽部門入賞、文化放送音楽賞、二期会新人賞受賞、芸大オペラ「ラ・ボエーム」「ファルスタッフ」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コン・ファン・トウツテ」「セヴィラの理髪師」「秘密の結婚」「ロドレッタ」「修禅寺物語」等の他二期会オペラ「ジュリアス・シーザー」「後宮よりの逃走」「ニュルンベルクのマイスタージンガー」等に出演、また、オラトリオとしては、バッハ「クリスマスオラトリオ」「マタイ受難曲」ヘンデル「メサイア」ハイドン「天地創造」ベートーベン「第九交響曲」マーラー「第八交響曲」(千人の交響曲)等の独唱者として出演する一方、広くドイツリートコンサートなどでも活躍している。東京芸術大学大学院オペラ研究科、東京音楽大学、二期会オペラ研修所各講師、文化庁オペラ研究所助手を経て現在武蔵野音楽大学講師、二期会会員、日本フォーゴ・ヴォルフ協会同人、「カント・アパッショナート」顧問。



田島好一 (バリトン)

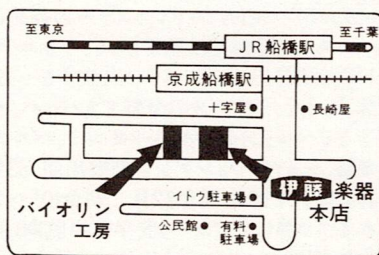
国立音楽大学声楽科卒業。同声楽科専攻科修了。イタリア留学。ローマ・サンタ・チェチリア音楽院アカデミアを首席で卒業。オペラをロメオ・アルドウィーニ、歌曲をジョルジオ・ファバレットの各氏に師事。ローマを中心に活躍。その間、第7回世界平和友好祭音楽コンクール(ウィーン)に日本代表として出場、入賞。ジュネーブ国際音楽コンクール、第2位。ベニミアノ・ジューリ国際音楽コンクール、第1位。フランシスコ・ピニアス国際音楽コンクール、第2位。コンサート及びローマ・ミラノ等でR.A.I放送に出演。

1975年NHKが招聘したイタリア歌劇団と共演。1977年外務省の派遣でローマ・ナポリ・ミラノでリサイタルを行う。1979年香港政庁主催の演奏会に日本代表で出演。その後台湾にてリサイタルを行う。1985年台湾高雄市で行われたアジア音楽祭に日本代表で出場。1987年韓国ソウル市で行われたアジア音楽祭に日本代表で出場。国内でもオペラ、リサイタル、オーケストラとの共演、放送にと活躍している。東京・関西・日伊声楽コンクール審査員。国立音楽大学声楽部長。

あなたの楽器は健康ですか？

バイオリンの美しい音色を保つためには

厳しいチェックを…。



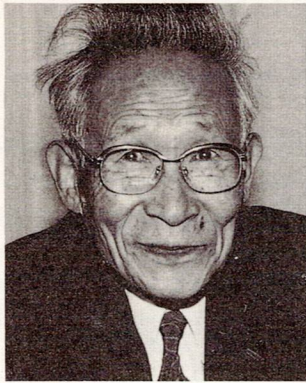
株式
会社

伊藤

楽器・バイオリン工房

☎(0474)31-0111(代)

営業時間 AM10:00~PM7:00
(水曜定休)



村上正治(団長)

団長は、君津郡袖ヶ浦市横田出身の牧師である村上治氏の長男として、1914年に新潟県村上町で誕生されました。明治学院中学部卒業後同校高等部商科に進学しましたが作曲希望で中退、音楽修業に専念、1935年国立音楽大学作曲部に入学して卒業後は市川小を初め中央国民学校や市川高女、市川一中、市川二中に務めながら市川文化会や市川混声、市響、市響吹奏楽、ジュニアオケ、行徳混声を結成して指導に当り、県音楽教育研究会や全千葉合唱連盟、県吹奏楽連盟、千葉交響楽団協会、県及び市川市の両芸術文化団体協議会、日本アマチュアオーケストラ連盟、全日本文化団体連合会等をも組織し、文化振興に貢献したかどで過去に市川市教育委員会、千葉県教育委員会、千葉県知事、文化庁長官の文化功勞を受賞していましたが、87年秋、勲四等瑞宝賞を叙勲されました。92年4月には、第1号の市川市民栄誉賞も受賞されました。現在国立音楽大学の評議員でもあります。

鈴木珠美(ピアノ)

1990年、国立音楽大学ピアノ専攻卒業。篠井寧子、故クロイツァー豊子、村松庸子の各氏に師事。在学中、学内定期演奏会にソロで出演。1990年、91年国立音楽大学同調会コンサート(千葉県支部)に出演。90年第3回市川市文化会館新人演奏会に出演。91年市川市少年自然の家主催、プラネタリウムコンサートに出演。92年千葉県高等学校教員演奏会に出演。93年第20回家永ピアノ・オーディション合格。5月21日サントリーホールにて、合格者紹介コンサートに出演。

在学中より、声楽、室内楽、合唱などの伴奏活動も行っている。1988年より行徳混声合唱団、1990年より市川混声合唱団にピアニストとして参加。1991年以降、市川オペラにて、「椿姫」や「アドリアーナ・ルクヴルール」などのコレペティウアもつとめている。



団員募集

♪市川混声合唱団、行徳混声合唱団では、初心者、経験者、男性、女性を問わず、団員を募集しています。本年11月7日(日)には、市川市合唱祭に参加予定、また12月19日(日)には、オーケストラと共演で「ペルシャの市場にて」や、グリーグの音楽物語「ペール・ギュント」の合唱を歌います。

混声合唱の楽しみ、オーケストラとの共演の喜びをあなたも体験してみませんか。見学、お問い合わせ大歓迎です。

市川混声合唱団	練習日	毎週木曜日	午後7時～9時
	練習場所	市川公民館(JR市川駅北口 大門通り入口)	
	問い合わせ	中野かよ 0473(76)0433	
行徳混声合唱団	練習日	毎週火曜日	午後6時50分～8時50分
	練習場所	行徳公民館(東西線 行徳駅より徒歩6分 行徳市庁舎 3階)	
	問い合わせ	石井省二 0473(96)2303	

曲 目 解 説

ベートーヴェン 〈交響曲第9番〉

—フリードリヒ・ウィルヘルムIII世への献呈譜について—

ベートーヴェンの交響曲は、以前からオーケストレーションの問題点が指摘されてきた。つまり、当時のオーケストラは、金管は自然倍音しか演奏できず(つまり、半音階が、均等な音質では演奏できず)ーティンパニにはペダルが無くー木管はキー・システムが不完全で、機能性や音域に限界がありー弦楽器も音域に問題があった。中でも〈第9〉は、耳が殆ど聴こえなくなっている作品でありながら、音楽の内容は、最も前衛的。時代を先じた音楽を、無理やり、型どおりの既製服の中に押し込めたように感じすら受ける。

その結果、ベートーヴェンが、こうした楽器の不完全な部分が改善されてから後の『近代オーケストラ』を使えたらーという発想がうまれた。何しろ、〈第9〉初演の僅か6年後の1830年に書かれたベルリオーズの〈幻想〉では、ピストン付きホルネットが用いられ、自由に半音階が使われているのだから。具体的には、旋律が、より滑らかな線を描いて浮き出てくるように、金管を中心に手を加えるのが、解決法になる。

そうした発想によって、ベートーヴェンのスコアに手を加えて演奏するのを始めたのは、『近代オーケストラ』の指揮者としての初代チャンピオンと言うべき、大ワーグナーだった。その影響は絶大で、マーラー、ワインガルトナーといった指揮者達が、それを受け継いだ。「ベートーヴェンのスコアに手を入れるのは、当然」という、そうした伝統は、フルトヴェングラーやトスカニーニの世代まで、程度の差はあるにせよ、

議論の余地の無い“職業的な常識”として継承されてきたのだ。

筆者は、そうした編曲を辿ったあげく、チューバを加え、ティンパニを2人で叩かせる積極的なアレンジ『マーラー版』まで行き着いた。しかし、そうした過程で、逆に、指揮者が底本として使用していた慣用版のスコア自体を見直す必要があるのでは?という思いが募ってきたのである。

そのきっかけになったのは、フィナーレの「神の前に!(Vor Gott!)」の、ティンパニだけに付けられた>Pという指示だった。トルコ軍楽に乗って、テノールが歌い出す前の、合唱による最初の項上部と言え、お解り頂けるだろう。指揮者マズアは以前の録音から、その部分で、合唱だけを強くffのままで引き延ばし、ティンパニを含めたオーケストラ全部を>Pに従ってデミヌエンドさせている。それがベルリンの国立図書館に所蔵されている献呈スコアに寄っているということが判明したのだ。

その筆写スコアというのは、ベートーヴェンが当時のプロイセン王、フリードリヒ・ウィルヘルムIII世に献呈した、最も正統的かつ重要な文献である。ところが、マズアの演奏をよく聴いてみると、他の部分は、ワーグナー以来の慣習的編曲の殆どを採り入れているので、献呈スコアの実像というのは、皆目わからないのだ。それで、ファクシミリを取り寄せてみたところ、従来、我々が用いていた慣用版の疑問点の大部分が解けたのである。

	<ul style="list-style-type: none"> ○初稿、自筆譜。 ○手書きによるパート譜作成。
1824年 5月7日	<ul style="list-style-type: none"> ○初演 ○フィナーレのトルコ行進曲の冒頭部を追加する等の小改訂を加える。 ○初版印刷スコア用の原本として、写譜師に浄書スコアを作らせる。時間がないため、5人以上の筆写師が筆写作業を担当した。
1825年 1月16日	<ul style="list-style-type: none"> ○完成した初版用原本に目を通したベートーヴェンは、それをショット社に送る。
1826年 6月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○ショット社での初版第1刷が刷り上がる。 ○本体は刷り上がったのだが、表紙に献呈者の名を擦り込む必要があったので、それを待ったまま、出版は、ペンディングになり8月まで、ずれ込む。 ○写譜師ペーター・グレーザーによる献呈用浄書スコアが完成。 ○プロイセン王、フリードリヒ・ウィルヘルムIII世に献呈することが決まる。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ショット社の初版スコアとパート譜刊行。
9月末	<ul style="list-style-type: none"> ○ペーター・グレーザーによる献呈用浄書スコアが、ショット社の初版を添えて、ウィルヘルムIII世に献呈される。
10月13日	<ul style="list-style-type: none"> ○ショット社への手紙に、計15カ所のメトロノームの数字を書いたメモを送る。但し、それらは甥のカールに口述筆記させたものだった。
11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ○ウィルヘルムIII世から謝辞が届く。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ショット社への手紙で、スケルツォ楽章の、トリオ後のダ・カーポのリピートの仕方をスケルツォ後半は一回だけでコーダに飛ぶように直させる。
1827年 3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○ロンドンのフィルハーモニー協会に、計15カ所のメトロノームの数字を書き送る。これは、シントラーの代筆。
3月26日	<ul style="list-style-type: none"> 病没

表は、〈第9〉に関するスコアの成立を整理したものが、献呈譜の記述は、初版第1刷には、まだ印刷されていないかったメトロノームの数字や、スケルツォ楽章の該当箇所に、ショット社に出版後に送ったリポートの確認（訂正）事項が、書き入れられていることなどから、初版よりも結論に近い形だということが解る。

テンポ指定で興味深いのは、IV楽章のオーケストラによる序奏部で、低弦が『歓喜の主題』を歌い出す部分の『アレグロ・アッサイ』が『アレグロ・モデラート』に直され、III楽章の第5部の12/8拍子になる部分の『ステツソ・テンポ』に『ビウ・アダージョ』が書き加えられていることだ。どちらも、ややテンポを弛める指示であり、冒頭に指定された超快速のメトロノーム指定で一本調子に突き進むのではないことが示されている。

オーケストレーションの違いの中で、最も聴き分けられ易いのは、II楽章のトリオ後半のヴァイオリン・パートだろう。献呈譜だと、ここで暗示されるIV楽章の理想郷が、^{エリージウム}蜃気楼のような感じになる。

弦の弓使いや、管のフレーズングの違いも大きいですが、一番、興味深いのは、ディナミックやアクセントだ。慣用版は、

^{トゥッティ}全合奏の山場に、ff-sf-sf-sf、ff-f-f-f、sf-f-f-f-fといった指示の混乱が見られたが、これを献呈版に従って直すと、遥かに整合性に富んだ響きになることが判った。従来は、こうした部分を、ミスプリと見做し、全部ff-ff-ff-ffのように演奏する『絶叫型』の解釈が多かったが、お聴きのように、献呈譜の通りに実行すると、遥かに古典的な、すっきりした響きになる。

典型的なのはスケルツォの最後。指定通り、ff-f-f-f-fで演奏すると、この曲の前半部の鍵の一つである『空5度』の虚無的な世界に投げ出されたまま終るのだ。実は、これは、慣用版でも同じだったのだが、献呈譜で裏付けが取れたため、確信を持って、そう、演奏できるようになった箇所の一つである。今回、お聴きになって「おやっ？」と思われる部分の多くには、そうした箇所が、多く含まれていることを知っておいていただきたい。

声楽部分では、トルコ行進曲のテノール・ソロに〈〉が、頻繁に書き込まれていて、より、オペラティックになっているのが目立つ程度。総じて、オーケストラ・パートほどの違いは無かった。 (金子建志)

“歓喜に寄す” (日本語訳)

(ベートーヴェンの作詩部分)

おお友よ、この調べではなく もっと楽しく、喜びに満ちた調べを いっしょに唱おうではないか。

(シラーの詩)

歓喜よ、美しい神々の閃光、天の楽園から来た乙女よ、
我々は、燃えあがり、崇高なところ、おまえの聖なるところへ 足を踏み入れる。
おまえの魔法の力は 時が容赦なく切り離したものを 再び結び合わせ、
おまえの軽やかな翼がとどまるところで すべての人々は兄弟となる。

一人の友を真の友とする 大きなもくろみに成功した者は、
やさしい妻を得ることのできた者は、
歓喜の声を合わせよ、
もちろん、この地上で 唯一の魂を自分のものと呼ぶことのできる者も、
そして、それをできなかった者は この集いから 泣く泣く立ち去れ、

すべてのものは自然の乳房から歓喜を飲む、
すべての善、すべての悪は 自然のバラの小径をたどってゆく。

自然は我々に くちづけと、ぶどうと、死の試練をくぐりぬけた一人の友を与えた
快樂は虫にも与えられ、そして 光の天使ケルブは神の前に立つ。

壮麗な天界を太陽が飛びぬけていくように悦びあふれ、
勝利に向かう勇士のように喜々として、駆けよ、兄弟よ、おまえたちの道を！

いだき合え 百万の人々よ、
このくちづけを全世界に！
兄弟たちよ、星空のはるか上には 唯一の敬愛する父なる神が住んでいるにちがいない。

君たちは ^{こゝへ} 頭をたれ、跪くか、百万の人々よ？
この世の創造主の存在を思うか、 世界よ？
星空のはるか上に彼を求めよ、
数ある星のむこうに彼は住んでいるにちがいない。

(高橋 圓 記)

本日の合唱団員

市川交響楽団協会合唱団

市川混声合唱団、行徳混声合唱団、南行徳中学校合唱部、浦安混声合唱団、
習志野第九合唱団、パローネ1985、その他賛助出演

ソプラノ

阿部都志子
阿部美奈子
阿部 美和
石黒 淳子
石田 友子
石田 未来
上柿 弘美
上野 まり
榎本 邦子
大隅 裕子
岡本 佳子
小田切恵美子
戒能 昌子
加瀬 真澄
香取真由美
蚊野 侑子
亀尾 真理
川又 京子
小島こずえ
鈴木 紫磨
瀬川 麗子
田久保洋子
武井 みさ
巽 篤子
田中 淳子
田中智恵子
田中 奈美
谷津 佳子
塚本 恵子
仲川るみ子
中野 かよ
永松 道子
野口みゆき
萩原美智枝
橋本 晴美
葉山 勝得

細谷摩耶子
前原 敏子
松室 美穂
松本 孝子
室野 智子
山本 桂子
村山 典子
若狭 正子

アルト

明戸 啓子
安藤 慶子
安藤 照子
石井 多恵
市川 恭子
伊藤 和子
伊藤 菜実
上野 千香
江沢 京子
越後 充子
遠藤 玲子
大島まり子
小野 桂子
尾上サヤカ
大塚美千代
小川 洋子
片岡 園子
金島 優子
川俣 直子
川俣由規子
草 淳子
郡山 偕子
小菅真理子
小松崎幸子
白取 博子
菅 由紀恵
操上 恭子
佐藤 和子

高野 光江
高野 佳江
高森 恵美
武井ゆかり
伊達真由美
田中しのぶ
田辺 育
玉置 倫子
ティナ・

グライスマン
富山 清子
鳥居 勝子
内藤富士子
野沢 正子
野瀬富美子
星 江美
松田美奈子
松丸美恵子
三浦 幸
三上 滋子
溝口 雅子
宮崎 照子
横田久美子
横田 玲子
吉澤 浜子
淀川 申子
渡辺 輝子

テノール

相浦 秀也
青木 武吉
井関 裕義
磯部 典雄
海老原幸作
遠藤 実
遠藤 康夫
大隅 勇次
大野 真弘

岡野 信也
小川 幹彦
尾崎 晋司
小田切 隆
金田 輝夫
黒川 和伸
小杉 幸男
後藤 学
佐伯 浩之
篠田 要衛
島津 勲
鈴木宗太郎
外池 東平
田中 雅雄
友野 信善
中沢 一紀
美里 直毅

ベース

秋川 正行
麻生 真澄
安倍 幹夫
荒木 裕介
飯田 健介
飯田 充
石井 省二
石川 喜美
磯部 功
市川 拓実
伊藤 治之
上田 望
榎本 貞次
大島 雅之
大友 亀男
香月 和郎
加藤 芳明
神田 晴彦
木下 雅治

木村 功
木山 弘士
小松崎 厚
崎山 裕一
佐藤 正義
柴田 篤司
清水 信
鈴木 義宏
副島 勘嗣
巽 由紀夫
田中 安茂
千葉 俊夫
長 吉之助
遠間 拓平
遠山 光榮
鳥居 秋彦
鶴田 稔
徳永 晃吉
豊川 種昭
中江 紳
野沢 竹恵
芳賀 健士
長谷川康啓
姫野 達郎
福田 昌弘
牧内 篤夫
村上 正治
古山 雄一
渡辺 一郎
渡辺 信隆

本日のオーケストラ

第1ヴァイオリン

生山 陽
石本 恵理
角川 総一
鈴木 薫
鈴木 淳子
竹内 甲
中渡 良宏
永田 匡
根守 弘和
福原 祥子
◎松山 和子
山岸 万紀
横田富美子
渡辺 昭子
渡辺千恵子

深沢 武夫
松延 裕子
三木美千子
村上 葉子
村田 康代
吉岡 一郎

ヴィオラ

斎藤十一郎
高橋 行継
竹内ひとみ
松山 俊子
村上 賢一
横田 行雄
若林 繁
渡部 玲子

第2ヴァイオリン

石井 久雄
亀井 玲子
栗林 えみ
須永 恒雄
堤 哲児
二宮 伸雄
久田しげ子

チェロ

岩立 一男
倉沢 由和
瀬川 清
田頭 扶
中村 公一
南明由美子
樋口 進

福原 耕二
横田 朝之
渡辺 潔

コントラバス

池田 和正
菊池 克彦
鈴木 重則
村上 信乃
山木 和広
李 隆子
サーチョ・
ヴェルドゲス

フルート・ピッコロ

木村 純一
木村真諭紀
佐藤 洋行

オーボエ

荒井 淳
宇田川知子
大坪 昌彦
二村 直子

クラリネット

一瀬 直美
多田 準也
半藤 嗣人
吉野 智久

ファゴット

青木 直之
小島 厚
戸川 安道
加川 洋
小関 敦子
永井美智子

ホルン

越塚 康央
近藤 利昭
嶋村 恒夫
菅谷 博之
坂東 朋子
藤井 茂司
丸田 朗

トランペット

安藤 宣明

一桙 泰一
加地 光
新井本昌宏

トロンボーン

久保 昭
衆 秀樹
野木夕起子

打楽器

岩橋 正治
丹羽 祐子
木村 範子
築都 裕

◎コンサートマスター

予 告

第236回 市響・市川市文化祭

親と子のための

ファミリー交響楽コンサート

平成5年12月19日(日) 2時開演 市川市文化会館大ホール 入場無料

♪オーケストラの楽器紹介もあり、こどもも大人も楽しめる音楽会です。

市響からのちょっぴり早いクリスマスプレゼント、どうぞおでかけ下さい。

曲目 ペルシャの市場にて……………ケテルビー
幻想序曲 ロミオとジュリエット……………チャイコフスキー
音楽物語 ペール・ギュント(合唱、ソプラノ独唱付き)……………グリーグ

出演 司会と語り 神田 山裕 管弦楽 市川交響楽団
指 揮 津田雄二郎 合 唱 市川交響楽団協会合唱団

問い合わせ 0473 (72) 0258 (横田)